

# 道に歴史あり

道は人々の往来や、物の輸送、情報伝達など生活になくてはならない社会の基本的な土台です。便利さを求める人々の欲求や、その時代に政治を行う人の狙い、社会的、経済的な要望にこたえる形で道の整備は進みました。

江戸時代には人や馬が通るため広く平らな道が整

備されましたが、明治時代になって人力車や荷車が普及すると、その重さに道が耐えられず、路面の傷みが目立つようになりました。それまでは土のままや砂利などを敷いただけの道が本格的に整備されるのは第二次世界大戦後で、全国各

地でアスファルト舗装が進み、さらに高速道路やバイパスが造られ、より速く快適な移動が実現しました。道によって広い空間が保たれることで、火事や事故が起こった場合に救急車などの緊急車両が通行することができず。木を植えて景観を保つなど、気づかない間に人々の生活にも影響を与えています。そのほかにも静岡市の大道芸ワールドカップや、浜松まつり、掛川大祭などのイベントは道の会場として

使われています。このように道には長い歴史があり、人々に使われることで発展してきたのです。



はままつ  
うえ  
浜松まつり(上)と  
かけがわのおまつりした  
ようす  
掛川大祭(下)の様子

